令和８年度第２回三重県社会教育委員の会議概要

１　開催日時　令和８年 11 月４日（水）　9 時 30 分～11 時 00 分

２　会　　場　三重県庁講堂棟 131 会議室

３　出 席 者

⑴　三重県社会教育委員（５名）

池山 敦（座長）、奥村 隆志、鈴木 智恵子、堺 知美、畑 和伸

⑵　三重県教育委員会事務局（５名）

育成支援・社会教育担当次長　荒川 健

社会教育・文化財保護課長　田米 正宏

同　課長補佐兼班長　酒井 紀夫

同　主任兼社会教育主事　森　陽祐

４　傍 聴 者　０名　（公開で実施）

５　内　　容

⑴　審議事項

・　令和８年度社会教育関係者ネットワーク実践研究交流会について

・　次年度の社会教育関係者ネットワーク実践研究交流会について

⑵　報告事項

・　令和８年度の社会教育推進体制整備事業の取組内容

６　概　　要

⑴　審議事項

本年度の社会教育関係者ネットワーク実践研究交流会の報告及び次年度の同事業の見通しについて説明し、意見を伺いました。

・　東海北陸社会教育研究大会と兼ねて開催したことで、県内外から非常に多くの参加者があったことは良かった。第４分科会の内容については、取組の報告は良かったが「社会教育委員としてどのように関わっているか」という面をさらに掘り下げていく内容としていければよかったと思う。テーマはみんなで話し合える内容を考えるべきである。例えば「学校と共に」というテーマは社会教育の原点とも言え、どの参加者でも共有できる。（畑委員）

・　事例発表の２本は「行政」と「個人」という対比が見られて興味深かった。協働事業については、「学校」と「地域」の双方にメリットがある好事例を挙げ、ノウハウを薦めていければよい。学校現場でも見通しの立たなさから未だ他団体との連携に後ろ向きな声もある。そうした認識を変えていきたい。（奥村委員）

・　生涯学習センターのでは視聴覚ライブラリーでDVDなどの貸出を行っており、地域の自治会などでも活用いただいている。一度利用された団体は「連携・協働」の良さや勝手の良さを実感し、リピートがあるが、新規の団体にも知っていただけるとよい。事例発表などを通じて良さが広まっていけば活用の幅が広がる。（堺委員）

・　「事例の発表」という形態での開催は、興味は湧くが、資金や規模などの実態が、所属する団体とは大きく異なるため、参考になりにくいことも多い。（鈴木委員）

・　発表者の事業や事例をそのまま自身の活動へ適合させることは難しいので、発表者の培った「プロセス」を抽出し、参加者へ伝えられるような形にしていきたい。

　また、社会教育の分野全体に、学び手にとっての「意味づけ」が足りていない様に思える。事例や発表が、地域づくりにどうつながっているのかという「学びの要素」を意識して伝えていけるようにしていく必要がある。社会教育主事や社会教育士にはそのコーディネートが望まれている。（池山座長）

⑵　報告事項

事務局から本年度開催された社会教育推進体制整備事業の内容及び社会教育関係団体事業について報告しました。

7　次回開催

日時：令和９年１月～２月頃

場所：未定